

第18回ショパン・コンクール優勝!

あの興奮と感動を、再び!!

ブレース・リウ

ピアノ・リサイタル

ラモー:クラヴサンのための小品

優しい嘆き、一つ目の巨人、2つのメヌエット
未開人、雌鶏、ガヴォットと6つの変奏

ショパン:モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」の『お手をどうぞ』による変奏曲 変ロ長調 Op.2

ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ長調 Op.35「葬送」

3つの新練習曲

リスト:ドン・ジョヴァンニの回想 S.418

©Yanzhang

2023 **2.25** **土** 14:00開演 (13:15開場) **愛知県芸術劇場コンサートホール**

S席 8,000円 A席 6,000円 B席 4,000円 (全席指定・消費税込) ※未就学児のご入場はお断りさせていただきます。

プレイガイド / 一般発売日 2022年10月28日(金) 11:00~

- チケットぴあ[Pコード:227-733] <https://t.pia.jp/> 052-308-8282(平日11:00~17:00)
- ローソンチケット[Lコード:43393] <https://l-tike.com/>
- e+(イープラス) <https://eplus.jp/>
- 名鉄ホールチケットセンター <https://www.e-meitetsu.com/mds/hall/> 052-561-7755
- 愛知芸術文化センタープレイガイド 052-972-0430
- セブン-イレブン、ローソン、ミニストップ、ファミリーマート店頭

お問合せ: 中京テレビクリエーション ☎052-588-4477 (平日11:00~17:00) <https://cte.jp/bruceliu2023/>

新型コロナウイルス感染症対策に関するご案内

ご来場いただく皆様に、安全に安心してご鑑賞いただけるよう、感染症拡大防止対策を徹底し開催いたします。
中京テレビクリエーションHP <https://cte.jp/>の注意事項をご確認の上、ご来場ください。

主催:  CHUKYO TV



“太陽のような音楽”を奏でるブルース・リウの みずみずしい演奏に身も心も酔う

こんなにも心が高揚し、愉悦の表情が浮かび、至福のときを過ごせるショパンの演奏がこれまであっただろうか。ブルース・リウの演奏は、陽気でのびやかでスケールが大きい。恩師のダン・タイ・ソンいわく「太陽のような音楽」。その長所が2021年のショパン国際ピアノ・コンクールで聴き手の心に深く浸透する演奏となり、審査員と聴衆の心をとらえた。

「僕のモットーは、常に新しいアイデアを演奏に盛り込み、新鮮さを備えたみずみずしい演奏をすること。楽譜と対峙する際にはインスピレーションを大切に、クリエイティブな演奏を心がけています。いつも同じ演奏をするのではなく、即興性やそのときに感じたものを率直に表現したいのです」

こう語るブルース・リウは素顔もおおらかでユーモア好き。周囲の人々を幸せ色に包む。

アーティストには自身の個性を存分に発揮し、十八番と呼べる作品が存在するが、ブルース・リウはショパン「モーツァルトの《ドン・ジョヴァンニ》の『お手をどうぞ』による変奏曲」。ショパン・コンクールでも演奏し、気負わず気取らず自然体の演奏ながら圧巻の表現力と説得力で、聴き手の心をわしづかみにした。私は何度かショパン・コンクールを現地で聴いたことがあるが、この曲を聴いたことはない。その稀有なる選曲でブルース・リウは存在感を発揮し、新たなショパン観を提示した。

現在は「バロック音楽にも興味があり、ハイドンやモーツァルトまでいろんな作品を弾いていきたい」と語る彼だが、今回はリストが登場。またもや斬新な解釈と表現に驚かされるに違いない。

往年の巨匠の演奏に魅了されているブルース・リウは、アルフレッド・コルトー、サンソン・フランソワ、アルトゥーロ・ベネデッティ・ミケランジェリに憧れている。みな歴史に名を残す偉大な個性派だ。今度は若きブルース・リウが、ピアニストの新たな歴史を刻んでいく。その瞬間に立ち会いたい。

伊熊よし子(音楽ジャーナリスト)

ブルース・リウ(ピアノ) Bruce Liu, Piano

ブルース・リウは2021年の第18回ショパン国際ピアノ・コンクールで優勝し世界の注目を集めた。

コンクールでの成功後直ちに世界ツアーを開始し、パリのシャンゼリゼ劇場、ウィーンコンツェルトハウス、ブリュッセルのボザール、東京オペラシティ、サラ・サンパウロ、フィルハーモニア管弦楽団との共演でロイヤル・フェスティバル・ホールに出演。またワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団とアメリカツアーを行い、ルクセンブルク・フィルハーモニー管弦楽団、ポーランド国立放送交響楽団、NHK交響楽団、ソウル・フィルハーモニー管弦楽団とも共演。

これまでの特筆すべき出演にはクリーブランド管弦楽団、イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団、中国NCPA管弦楽団とのアメリカツアーが含まれる。

今後はロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団との初共演、モンテリオール交響楽団とのヨーロッパツアー、ウィーン交響楽団との学友協会デビュー、さらにラ・ロック・ダンテロン、クラヴィア・フェスティバル・ルール、ラインガウ、エディンバラ、「ショパンと彼のヨーロッパ」、ドゥシニキ、グスタード・メニューインなどの音楽祭出演が予定されている。

ドイツ・グラモフォン専属アーティスト。ショパン・コンクールのライブ録音を収録したファースト・アルバムはフレデリック賞を受賞、グラモフォン誌のクリティクス・チョイスとエディターズ・チョイスのほか、2021年のベスト・クラシックアルバムに選出されるなど国際的に高い評価を受けている。

「私達が共通して持っているものは、私達がみな違っているということです」とこの若きピアニストは言う。中国人の両親のもとパリに生まれモンテリオールで育ったブルース(シャオユ)・リウの人生は、常に文化的多様性の中にあつた。ヨーロッパの気品、中国の幾千年の伝統、北米のダイナミズムと開放性—それが彼の姿勢、人格、個性を形成してきた。楽観性と笑顔をもって芸術家の道程をたどりながら、リチャード・レイモンドに学び、現在はダン・タイ・ソンに師事している。

